

地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～ 「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ ～

「第2回ケア・カフェきたそらち 終活～今ドキのお墓事情！」 開催報告

- ・日 時 令和5年1月20日（金）18:00～20:03
- ・開催方法 オンライン（ZOOM）
- ・主 催 北空知地域医療介護確保推進協議会
- ・参加者 50名（事前申込者50名 欠席1名、当日受付1名）
（市町別：深川市26名、妹背牛町7名、秩父別町5名、北竜町6名、沼田町6名）
（職種別：医師1名、歯科医師1名、歯科衛生士3名、薬剤師2名、看護職9名、保健師8名、介護支援
専門員7名、介護福祉士3名、社会福祉士3名、ソーシャルワーカー2名、リハビリ職1名、管
理者6名、事務職2名、その他2名）
- ・目 的 北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機
関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に
会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが
提供される多職種連携の関係作りを構築する。



例によって背景動画を
流して雰囲気づくりの予定でしたが…

今回、一見何事も無くスタートしたように見えますが、実はホスト（事務局）のZOOMの調子が悪く、開始直前でアプリが落ちてしまいました。しかし、そのままミーティングは続いていたので一安心、とも言えず、裏で大慌ての事務局でした。おかげで左の動画やBGMもうまく流せず始まってしまいました。

多職種合同研修企画小部会
森田小部会長の安定した
総合司会で事なきを得ました。



いろいろBGMも準備し
ただけどなあ。フゥ～





開会挨拶は、北空知地域医療介護連携支援センター長の新居 市立病院副院長です。

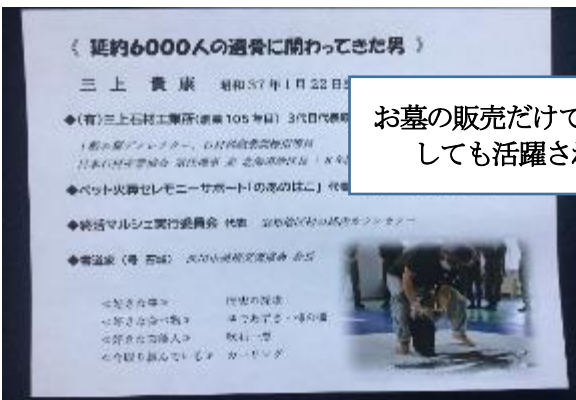
三上石材工業所 代表取締役 三上さんから、「終活～今 ドキのお墓事情」として話題提供



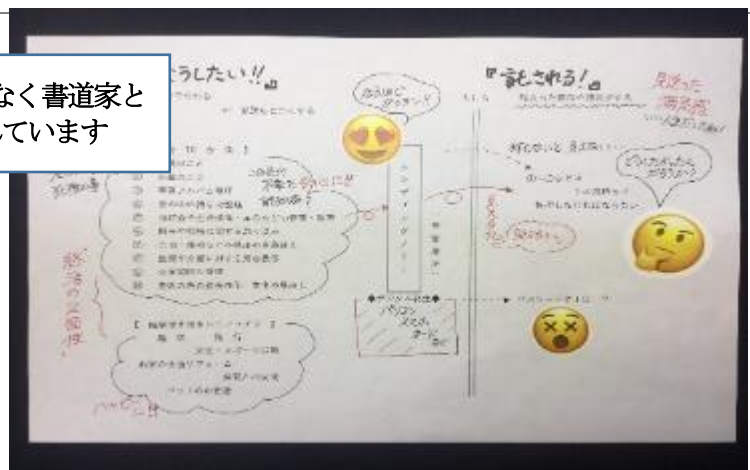
○令和4年度第2回研修会は、終活についてお墓を題材として「終活～今 ドキのお墓事情」と題し、従前に引き続きオンラインで開催しました。

○話題提供は、有限会社三上石材工業所 代表取締役 三上 貴康さんから、終活の目的やその方法、具体的な手段、お墓にまつわる情報などをわかりやすく説明・紹介していただきました。

- ・終活という言葉は知っているが約6割の人が「まだいいか」「死にふれたくない」など先延ばしにしているが、家族に迷惑や負担をかけたくないと思っている。
- ・葬儀やお墓、財産などは当然しなければいけない終活項目だが、近年はデジタル終活、ペットの世話なども整理する項目としての割合が増えてきている。
- ・今どきのお墓の相談事で多いのは、「墓じまい」。今のお墓をなくす、別なところへ移設するなど。改装とも。
- ・墓じまいの理由は、墓を守る子がない（自分が最後、子が女性ばかり、遠方に住んでいるなど）
- ・VRによるお墓参りも新たに出てきている
- ・今後のお墓はどうなっていくか？コンパクト化、低価格化、生前墓、団塊 Jr たちがどう供養していくか。
- ・しばらくは墓じまいが続くかも…。
- ・現役大学生の6割超が「一族の墓を守る」との意見。親世代よりも先祖供養への意識は高い調査結果もある。
- ・お墓とは「命のつながり」を感じる場所。幸せを願うシンボル



お墓の販売だけでなく書道家としても活躍されています



色々なタイプのお墓が実際に建てられています。
多様性の波は今どきのお墓事情にも。



今回のカフェマスターは深川市高齢者支援課から立川さんが担当していただきました。ちょっと緊張気味!?



アンケートから

- 市民の方と終活について話すことはしにくいですが、ちょっとした会話から終活の話もしておくのもよいなと思いました
- 終活の話は切り出しにくい。特に高齢者の年代は死の話をタブーとする風潮がある中で、どのように切り出していけばよいか、の糸口が見えました
- お墓の話は何となくまだ先で自分に関係のない話と思っていましたが、終活は家族も含め大切なことだと思いました
- 自分が歳をとってからと考えていたが、そうではなく家族が困らないように、準備しておこうとおもいました!
- 終活についての皆さんの思いや感じ方を聞くことができたり、片付けの大変さの体験も聞くことができ、自分のことも考えるようになりました
- 終活について話を聞くのは初めてでとてもいい話がきけました
- エンディングノートをこれを機会に書いてみようと思います、少しずつ片付けをしていこうと思いました



近い家族・夫婦でも知らないことがある。声を出していづらい。

森田小部会長



～グループワークから～

- ・散骨を希望する親がいる。理由は「親が海（船乗りになりたかった）への憧れがあった」、「遺骨管理など子に迷惑をかけたくない」など
- ・終活を全く考えたことがない方、家族が困らないように必要なことを伝えている方など意見が分かれた
- ・親が入っている生命保険や財産等を知らない
- ・自分事として30～40代でも決めておく事必要
- ・姉妹だけなので墓じまいを検討している
- ・幼いときの記憶では家の裏山や田んぼの横に墓場があった。土葬で盛土の上に石が置いてあって生活の場と近いところに先祖を感じられる場所があった。子供の時は怖かった。
- ・引っ越しの際に子どもの頃の大事な写真が間違っ捨てられてしまった、大事な漫画が捨てられていた
- ・自分達も早めに物を処分する事を考えていく必要がある。終活は早いに越したことはない。現役世代から考えていくことが大切
- ・明るく話し合い、エンディングノートをうまく活用していければいいな
- ・いつもは仕事に関するテーマ。今回は仕事と直接関係がないので自分の話をできて個人的にはとても話しやすかった

～参加者の声から～

- ・身近な人の死について改めて考えるきっかけになったのと、生前にやっておくべき事は思っている以上に多いなと感じたので参考になりました
- ・散骨について知りたかったので具体的に話を聞かせていただきとても参考になりました。親の想いと家族としての向き合い方を考える事、また普段から今後について話せる関係や環境作りをしていきたいと思えます
- ・終活は生涯教育の一環として普及できるといいなと思えました。変化もすると思うので、年代ごとで見直しできる仕組みなど何か取り組めたらいいなと思えます
- ・早く直接会ってケアカフェが開催できる世の中になると良いと願います
- ・(今後聞いてみたい話)
今回の続編、葬儀の話、遺言の残し方、断捨離 成年後見制度、虐待、地域でのACP (Advance Care Planning : 今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス) 等

終活に関して何ができるか。一人でも多くの地域患者に広めたい

定岡歯科医院
定岡さん



地域へのサポートとして無料でもいいので施設でのイベントに呼んでいただければ自分や終活マルシェのチーム員が行きたい

三上代表



終活をストレートに言うのではなく、来年の雪はねや買い物はどうする？という話から終活に繋げていってはどうか

東ヶ丘病院
疋田さん



閉会挨拶で、アニスティ深川（中央病院理事）の菅野さんから、いつもの支援に関わるテーマと違い、今回は自分や親も関係してくる内容だった、今後コロナが落ち着いたらお会いして話をしたいとの挨拶がありました

